

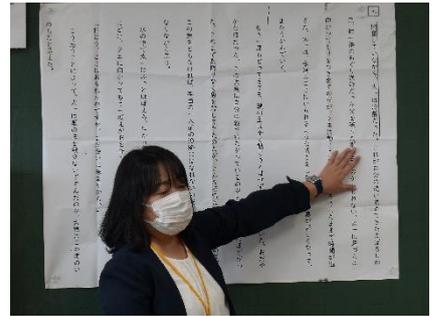


未来を夢見て Season 2

2021/9/20 No. 100

「連サポ」を終えて ～授業で子供を育てるとは・・・～

ほのかに金木犀の香りがする季節になりました。9月17日（金）連携サポート事業（※通称「連サポ」）の当日です。宮城県総合教育センターから渡邊先生、小澤先生を助言者にお迎えし、宮床中学校から国語科の2名の先生、吉岡小から研究主任の川名先生始め4名の先生方の参加を得て研究会が行われました。



5年4組は「大造じいさんとがん」の授業提案です。私たち小学校の教員にとっては、馴染みの深い教材ですが、当日参加していただいた大和町教育委員会の富士原参事先生がおっしゃっていたように、何度読み返しても新たな発見や気付きがある教材でもあります。麻衣先生は子供たちを包み込むような優しさに溢れていて、1つの発問をした後、子供たちの表情や様子から無理に進めようとせず、発問を言い換えたり、時にはその場で考えたりといつも学習者である子供たちの視線で授業をつくります。明るく素直な子供たちが多く、確かな学級経営に支えられ、子供たちが伸び伸びと学んでいる様子が伝わってきました。



そして6年生。子供たちと美香子先生の姿に4月から6年生担任として悩み多き日々を過ごしてきた美香子先生を知っている私たち同僚一同、感極まる瞬間があったことと思います。何が子供たちの意識をあのように変えたのか、いろいろ理由は考えられますが、やはり最後は授業。この1時間の授業に膨大な時間と労力をかけてきた美香子先生の気持ちと、それを支えてきた6年生の先生方の思いが子供たちに伝わったのではないかと思います。

検討会は初のワールド・カフェ方式での検討会。本来は本当に飲み物なども準備し、気楽に語り合う形式なのだそうですが、コロナ禍のため飲み物はなし。それでも、十分に授業について語り合うことができたものと思います。

令和3年度の校内研究も気付けば、折り返し。残るは2年生の全校授業と12月の指導主事訪問に向けた授業づくりです。コロナ禍で、学校としての一体感がなくなっている、と感じてきましたが、今年はこのように全職員で参加できる研修の機会があり、授業づくりを通して職員の同僚性を高めることができるのは教師としてこの上ない喜びでもあります。

それにしても、6年生の児童の最後の一言、「おわったあ・・・」。子供たちも必死に頑張っていたことが伝わってきたこの日を象徴する一言でした。

麻衣先生、美香子先生本当にお疲れ様でした。

（文責：手代木）